

デザインを新たに平成22年4月から新車両を導入したつつじバスは、平成22年度同様に通院や買い物など高齢者に対する足の確保と利便性向上に重点を置き、公共交通運行システムとしての確立を目指す。

◆ 運行基本方針

平成18年度の社会実験を踏まえ、公共交通運行システムとしての確立を目指して「地域に活かされるつつじバス」と位置づけ、市民ニーズに応えた市民の足の確保として、特に高齢者に対する足の確保と利便性の向上に重点をおき、一層のつつじバス利用の促進を図る。

また、導入した新車両は、バリアフリーに対応しており高齢者、障害のある方等にもやさしく、アイドリングストップシステムを装備して環境にやさしいバスで、更に音声案内の機能も装備しているので初めての方でも安心して乗車できるバスとなっており、その統一したデザインは、人を楽しませ、親しみのもてるわかりやすいバスとして、さらには福祉施策の充実や商店街の活性化策として、今後も利用促進を図るとともに「乗ろう、守ろう、みんなのつつじバス」をスローガンに「市民参加と協働」のもとで全市的な利用促進運動の展開を進める。

◆ 運行内容

社会実験における利用実績と利用者等の要望・意見のもとデザインを新たに平成22年4月から新車両を導入したつつじバスは、平成22年度同様に継続運行し公共交通運行システムとしての確立を目指す。

- (1) 1日5便を基本に運行する。(河和田線、中央線、丹南高校線を除く路線)
 ・ 午前2便、昼頃1便、午後2便の計5便の運行

第1便 (午前)	学校、会社(一部)などJR鯖江駅、福武線西鯖江駅・神明駅に	第4便 (午後)	午後の病院、買物などに(帰宅に)
第2便 (午前)	午前の病院、買物などに	第5便 (午後)	学校、会社、病院、買物などからの帰宅に
第3便 (昼頃)	病院、買物などに(帰宅に)		

- (2) 11路線71便で運行する。(河和田線、中央線、丹南高校線を除く路線)
 ※社会実験における利用実績を踏まえ、4便、5便、6便の路線を設定

路線名	便数	路線名	便数	路線名	便数	路線名	便数
中央線	19	神明線	5	吉川線	6	河和田線	9
鯖江南線	4	片上・北中山線	6	豊線	5	丹南高校線	3
新横江線	4	立待線	5	中河・北中山線	5	計	71

(3) バス7台で運行する。(平成18年度の利用実績を基本に経費削減を図る)
※低床バス6台(新車両)、ジャンボタクシー1台(現行)の7台。

(4) 利用料金は、1回乗車100円とする。ただし小学生以下の子どもさんや障害者等(身障者および介護者、生活保護受給者、母子家庭等)は無料とする。
【H19料金システム継続】※定期券は廃止する。

(5) 冬期間の臨時便として豊線(JR 鯖江駅-福井高専)、片上・北中山線(高年大学-東陽中学校)【H23.12月12日~】の増便。
【H19継続】

(6) 商店街活性化策として、買物無料券を発行する。 【H18継続】
※平成18年度268枚、平成19年度377枚、平成20年度327枚
平成21年度120枚、平成22年度110枚
(平成23年3月31日現在)

(7) 高齢者の交通事故防止対策として、65歳以上の運転免許証返納者に対し1年間の無料乗車券を交付する。
【H19継続:平成19年12月1日より10年に延長】
※平成19年度39人、平成20年度78人、平成21年度72人
平成22年度63人 (平成23年3月31日現在)
計252人

(8) 75歳以上の人は、毎月の10、20、30日の3日間について料金の支払いの際に「後期高齢者医療保険証」を提示すれば無料とする。
【H20継続】
※平成20年度4,653人、平成21年度5,148人
平成22年度5,225人
(平成23年3月31日現在)

(9) つつじバスご意見用紙のバス車内の備付実施。
【H20のみ】

(10) 丹南高校線の第2便の増便。
【H21継続】

(11) 定額給付金の申請書発送にあわせ、『さばえお楽しみお買い物券』のチラシの中につつじバス100円利用券(2回分)を刷り込み印刷し全戸配布。
【H21のみ】
4月778人 5月1,585人 計2,363人の利用者数

(12) つつじバス累計100万人突破記念としてつつじまつり期間中に100円
利用券を車内に備付。

3日間計1,291人の利用者数

※参考H20年度1,127人、H19年度981人

【H21のみ】

(13) 家族あいのりの旅支援事業

◆ 平成22年度より鯖江市内の小学3年生のみを対象とし、家族が協力し、つつじバスを利用して市内を巡ることで家族の絆を深めるとともに、つつじバスに乗ることで公共交通(バス)機関の重要性やバスの乗降等を学習する家族あいのりの旅(鯖江百景を巡ってみよう)支援事業を夏休み宿題の選択肢の1つとして実施。

【H21継続】

H21:406人(参加児童) / 1,494人(市内小学校3・4年児童) 参加率27%

H22:453人(参加児童) / 746人(市内小学校3年児童) 参加率61%

◆ 平成23年度からは提案型市民主役事業化制度に基づき(株)ウォンツに委託され、家族とつつじバスに乗ってさばえ百景を巡るだけではなく、会社見学・ものづくり体験も新たなコースに組み込まれ新たにスタート。

【H23新規】

(14) 新つつじバスノンステップ化事業

平成22年度からバス6台(現行:28人乗り2台、40人乗り3台、52人乗り1台)を市が購入し全て低床バスを導入することで、更に利用促進と利便性向上を図る。ただし、ジャンボタクシー1台については従来そのままとする。

【H21のみ】

(15) 運行体制の刷新

平成22年度からバス6台の新車両導入にともない、運行体制を従来の単年度入札方式からつつじバス新車両貸与方式とし、10年間の長期安定契約方式とした。ただし、ジャンボタクシー1台については従来そのままの単年度入札によるものとする。

【H21継続】

(16) 新つつじバスラッピングデザインコンテストの実施

県内のデザイン系学科のある高校、大学および鯖江市とかかわりのある大学(丹南高校、福井高校、仁愛短期大学、福井工業大学、福井デザイン専門学校、京都精華大学)にバス車体の前後両側面にデザインを募集し、新つつじバス車両のラッピングデザインを決定した。

【H21のみ】

◆ 平成21年10月21日選考委員会により2種類のデザインに決定。

○小型低床5台(河和田、鯖江南線・新横江線以外)…福井デザイン専門学校

○中型低床1台(おもに河和田線) …福井工業大学

◆ 平成22年3月17日つつじバス新車両お披露目式を実施。

(17) バス停留所以外での乗降システムの検討

利用促進と利便性向上を図るために、停留所以外でもつつじバス運行路線であれば自由に乗り降りできるフリー乗降制を安全運行に十分配慮しながら検討する。

【H21 継続】

(18) つつじバス乗務員研修会の実施

平成22年4月からの新車両導入にむけ、乗務員、運行管理者の情報共有、意識の統一を図るため、また交通事故防止・交通安全・バス乗務員のサービス向上を目指すため市が独自に実施。

◆ 実施日 平成22年3月30日

〔研修内容〕

○交通事故防止・交通安全研修 鯖江警察交通課 丹尾 亮一係長

○バス乗務員研修 講師 上村 泰子

【H21のみ】

(19) つつじバス利用促進キャンペーンの実施

◆ つつじバス新車両導入記念利用券の発行

広報さばえ4月号の表紙の左上に「つつじバス新車両導入記念利用券」を刷り込み鯖江市内全戸配布。(21, 115世帯)

【期間】平成22年4月1日(木)～5月9日(日)

4月299人 5月82人 計381人の利用者数

【H22のみ】

◆ つつじバス新車両導入を記念したつつじバスと福武線の利用促進

福井鉄道福武線の土日祝日1日フリー乗車券を購入された方は、その日に限ってつつじバスを自由にご利用できるようにすることで、つつじバス利用促進および福武線の利用促進をはかる。

【期間】平成22年4月3日(土)～5月9日(日)

4月50人 5月30人 計80人の利用者数

【H22のみ】

◆ 高齢者外出支援事業

福井鉄道ハッピー1日フリー乗車券をバス車内で販売するとともに、その日に限ってつつじバス乗務員に提示すれば、つつじバスを自由に利用できるようにすることで、福武線とつつじバスの利用促進を図り、高齢者の外出を支援する。

※ 鯖江公共交通振興会より補填あり

【実施日】平成22年9月1日～

年度	H22
利用者数	716人
販売枚数	162枚

【H22継続】

◆ 回数券購入者につつじバスチョロQをもれなくプレゼント!!

つつじバス回数券(100円券11枚つづり1,000円)1枚購入につきオリジナルチョロQ「限定5,000個」を1個進呈することにつつじバス利用促進をはかる。

【期間】平成22年6月7日(月)～なくなり次第キャンペーン終了

年度	H21	H22
回数券販売枚数	3,572枚	4,262枚

(対前年比較19%増)

【H22のみ】

(20) つつじバス利用促進キャンペーンの実施

【H23新規】

◆ JR鯖江駅サンダーバード停車本数増加記念利用券の発行

広報さばえ4月号の表紙の左上に「つつじバス利用券」を刷り込み、鯖江市内全戸配布。(21,249世帯)

【期間】平成23年4月1日(金)～5月8日(日)

4月149人 5月65人 計259人の利用者数

◆鯖江市コミュニティバス（つつじバス）運行事業の現状について

・近年の利用者の動向、運営の収支と補助金の状況（運行開始から平成22年度まで）

《利用状況》

平成13年度	72,592人	5路線23便（4台）
平成14年度	98,323人（25,731人 35.4%増）	9路線49便（4台）
平成15年度	127,832人（29,509人 30.0%増）	9路線49便（4台）
平成16年度	129,242人（1,410人 1.1%増）	9路線49便（4台）
平成17年度	135,120人（5,878人 4.5%増）	9路線49便（4台）
平成18年度	135,136人（16人 0.0%増）	11路線78便（10台）
平成19年度	153,189人（18,053人 13.4%増）	11路線70便（7台）
平成20年度	171,231人（18,042人 11.8%増）	11路線70便（7台）
平成21年度	171,350人（119人 0.1%増）	11路線71便（7台）
平成22年度	188,277人（16,927人 9.9%増）	11路線71便（7台）
平成23年度	200,000人（目標）	11路線71便（7台）

《運行経費》

	支出(A) (委託費)	収入(B) (利用者負担金)	県補助金 (C)	市負担額 (=税金の投入額) (E)=(A)-(B)-(C)	総利用 人数 (F)	利用者 コスト (E)/(F)
	円	円	円	円	人	円
13年度	57,002,400	7,925,600	19,250,000	29,826,800	72,592	411
14年度	57,002,400	9,644,000	22,000,000	25,358,400	98,323	258
15年度	55,433,617	12,324,000	21,554,000	21,555,617	127,832	169
16年度	56,340,900	12,670,300	21,835,000	21,835,600	129,242	169
17年度	58,805,000	12,994,600	22,000,000	23,810,400	135,120	176
18年度	97,932,000	16,055,200	22,000,000	59,876,800	135,136	443
19年度	78,382,500	11,149,800	22,000,000	45,232,700	153,189	295
20年度	81,012,450	11,164,300	22,000,000	47,848,150	171,231	279
21年度	80,167,500	10,216,400	22,000,000	47,951,100	171,350	279
22年度	71,466,150	11,648,500	22,000,000	37,817,650	188,277	200

利用者コスト：利用者一人当たりに対する市の負担

（平成23年度以降の事業継続等について）

平成18年度の社会実験を踏まえ、市民ニーズに応えた市民の足の確保として、特に高齢者に対する足の確保と利便性の向上に重点を置き、平成22年度同様に継続運行し公共交通運行システムの確立を目指して「地域に活かされるつつじバス」と位置づけ、一層のつつじバス利用の促進を図る。

また、H24年丹南病院完成に向け、従来の2路線（中央線、吉川線）を乗り入れるだけでなく、立待線、片上・北中山線、神明線、【仮】歴史の道線の計4路線を路線延長し乗り入れる。更に丹南病院にはバス接近情報を発信し、利用者へのサービスを図る。今後とも利用促進を図るとともに「乗ろう、守ろう、みんなのつつじバス」を

スローガンに「市民参加と協働」のもとで全市的な利用促進運動の展開を進める。

(つつじバス停等広告事業)

平成18年度よりバス停に広告を募集し、市内企業等に支援をいただいております。平成22年度は31箇所、31万円(21事業所)です。また、平成22年度用の携帯時刻表に企業広告を募集し、現在15事業所に42.5万円の収入の支援をいただいております。

広告料一覧

年度	バス停広告料(円)	携帯時刻表広告(円)	計(円)
18	474,300	—	474,300
19	620,000	425,000	1,045,000
20	422,600	425,000	847,600
21	300,000	425,000	725,000
22	310,000	425,000	735,000

※携帯時刻表広告要領についてはH20年1月25日制定。